

久留米市地場企業景況調査レポート(平成24年1月～3月期調査分)

<調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

<調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

<調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

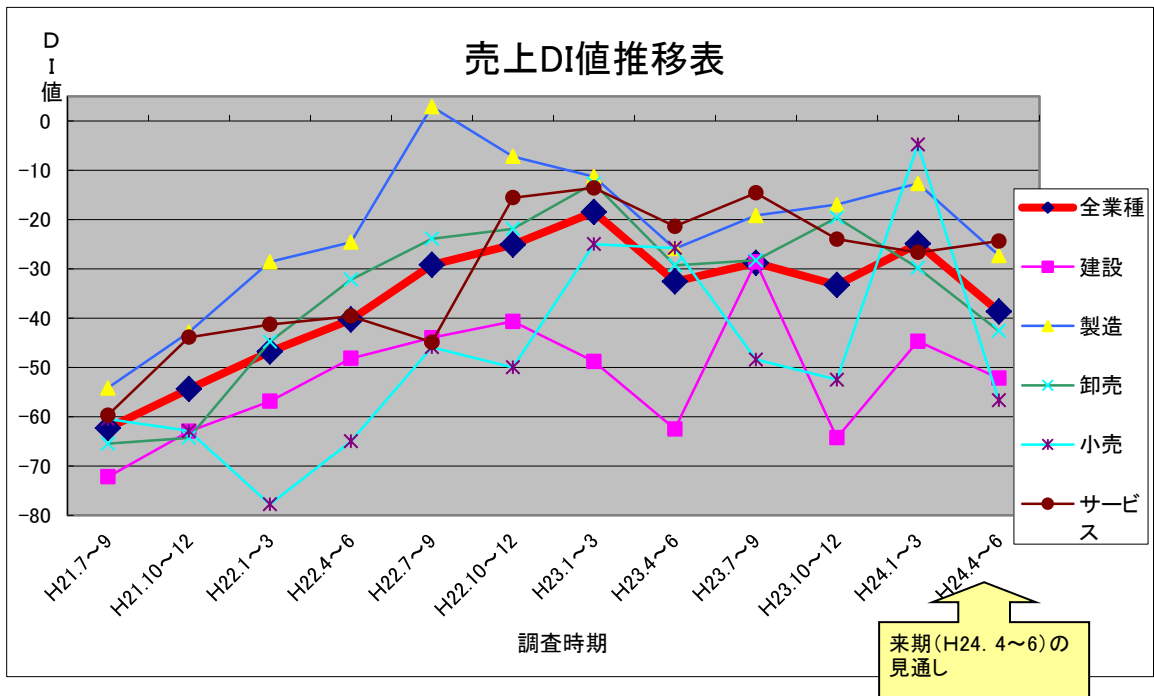
<DI値とは>

DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

<平成23年10月～12月期調査分回収結果>

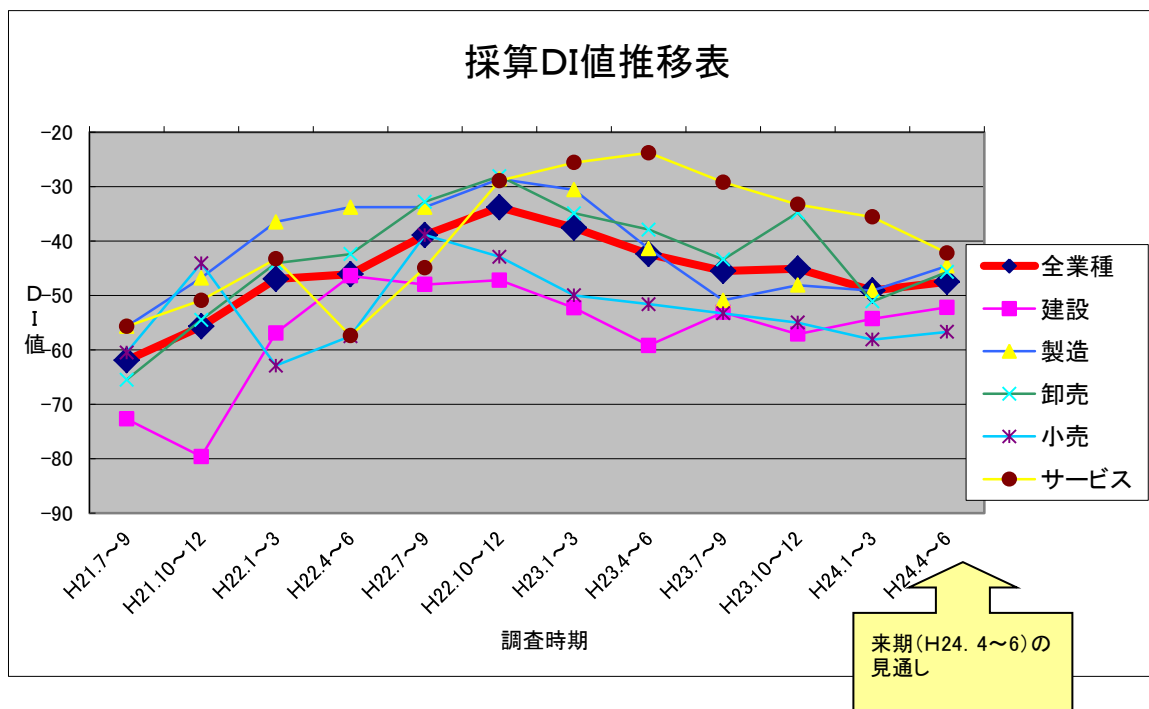
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	227	37.8%
建設業	120	48	40.0%
製造業	120	56	46.7%
卸売業	120	47	39.2%
小売業	120	31	25.8%
サービス業	120	45	37.5%



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「**売上面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は49社(前期比4社増)、「減少した」と回答した企業は102社(前期比10社減)、「横ばいである」と答えた企業は62社(前期比2社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は縮小して▲24. 9となり、前期比で8. 4P改善した。

業種別に見ると、建設業▲44. 7(前期比19. 6P好転)、製造業▲12. 7(前期比4. 3P好転)、卸売業▲29. 8(前期比10. 2P悪化)、小売業▲4. 8(前期比47. 7P好転)、サービス業▲26. 7(前期比2. 7P悪化)となった。

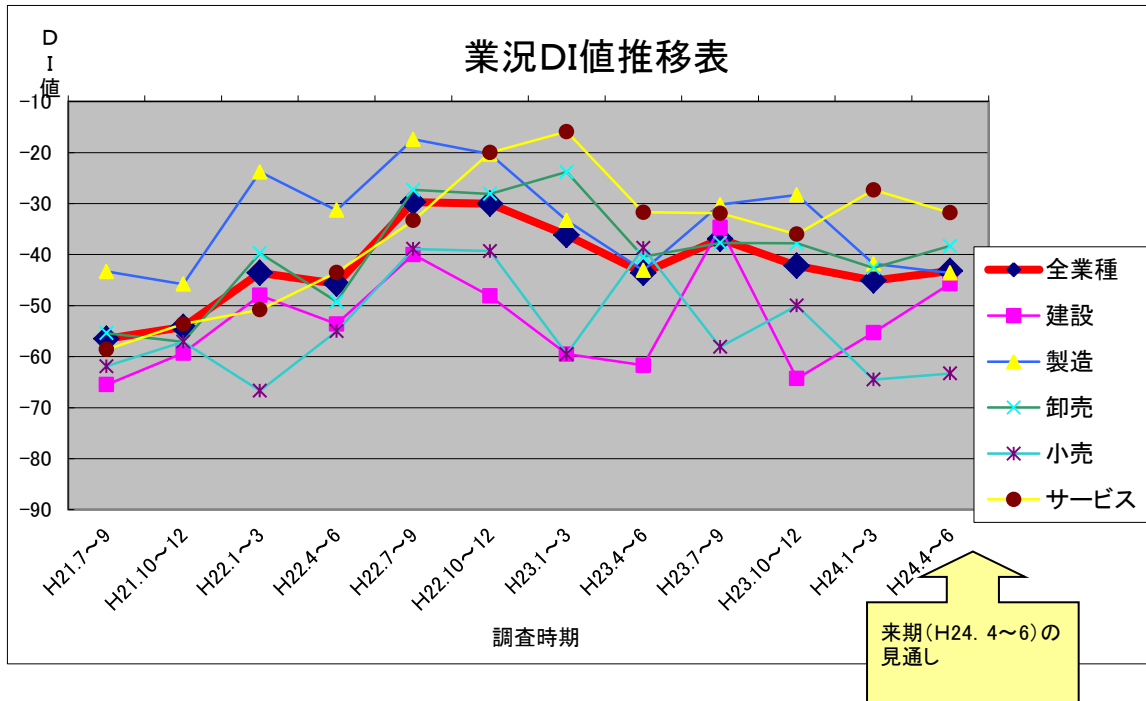
来期(H24. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲38. 7と0. 7P悪化する見込み。



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「**採算面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は17社(前期比9社減)、「悪化した」と回答した企業は127社(前期比4社減)、「横ばいである」と答えた企業は91社(前期比15社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲54. 3となり、前期比で9. 2P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲54. 3(前期比2. 84P好転)、製造業▲49. 1(前期比1. 0P悪化)、卸売業▲51. 1(前期比16. 3P悪化)、小売業▲58. 1(前期比3. 1P悪化)、サービス業▲35. 6(前期比2. 3P悪化)となった。

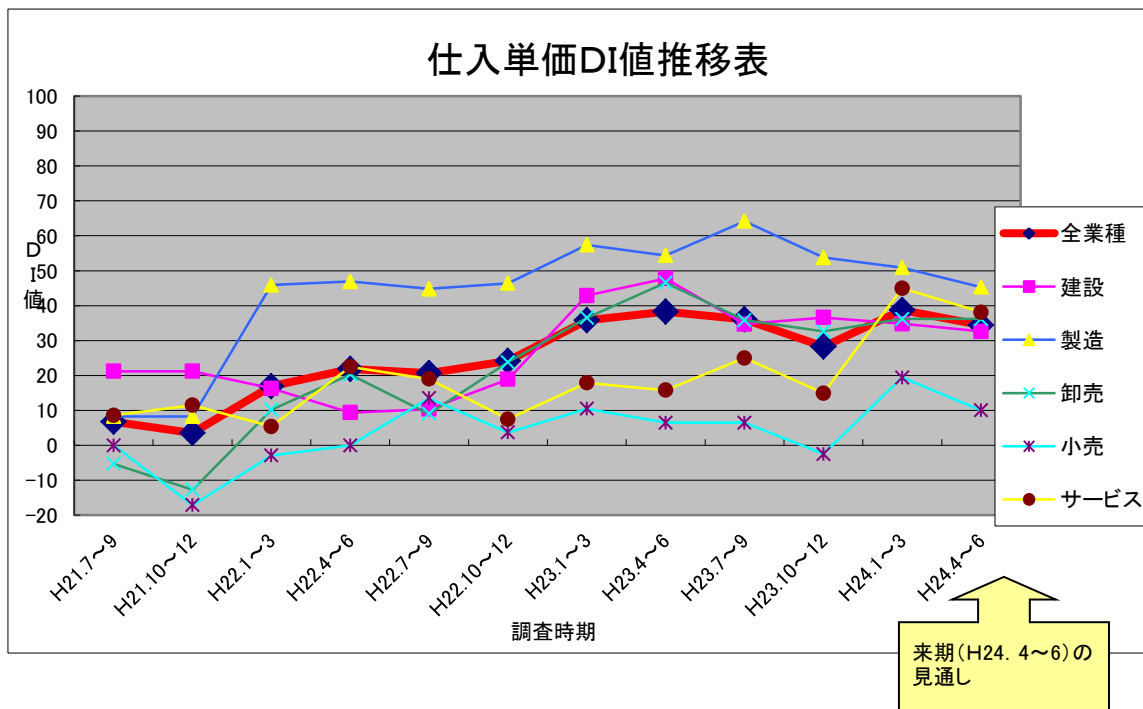
来期(H24. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲47. 5と、1. 4P悪化する見込み。



今期(H24.1~3)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は16社(前期比11社減)、「悪化した」と回答した企業は117社(前期比7社減)、「横ばいである」と答えた企業は91社(前期比12社増)であった。DI値を見ると、▲45.1となり、前期比で2.9P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲55.3(前期比9.0P好転)、製造業▲41.8(前期比13.5P悪化)、卸売業▲42.6(前期比4.8P悪化)、小売業▲64.5(前期比14.5P悪化)、サービス業▲27.3(前期比8.7P好転)となった。

来期(H24.4~6)の見通しでは全業種DI値は▲43.2と3.1P好転する見込み。

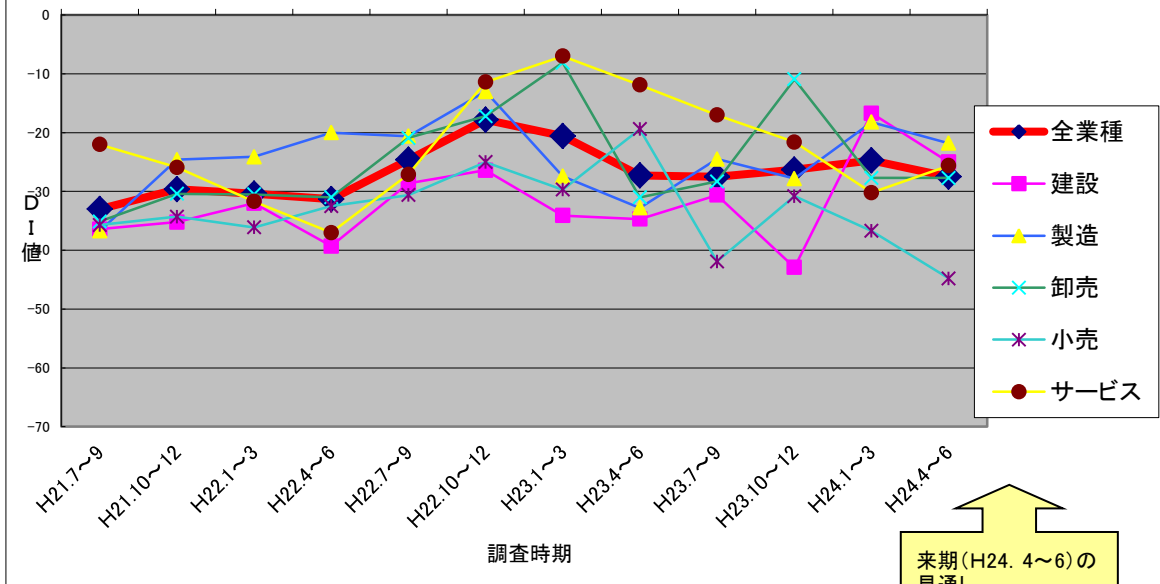


今期(H24.1~3)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は96社(前期比12社増)、「低下した」と回答した企業は12社(前期比8社減)、「横ばいである」と答えた企業は109社(前期比13社減)であった。DI値を見ると、38.7となり、前期比で10.4P好転した。

業種別に見ると、建設業34.8(前期比1.8P悪化)、製造業50.9(前期比2.9P悪化)、卸売業36.2(前期比3.6P好転)、小売業▲19.4(前期比21.9P好転)、サービス業45.0(前期比30.1P好転)となった。

来期(H24.4~6)の見通しでは全業種DI値は34.4と12.0P好転する見込み。

資金繰りDI値推移表



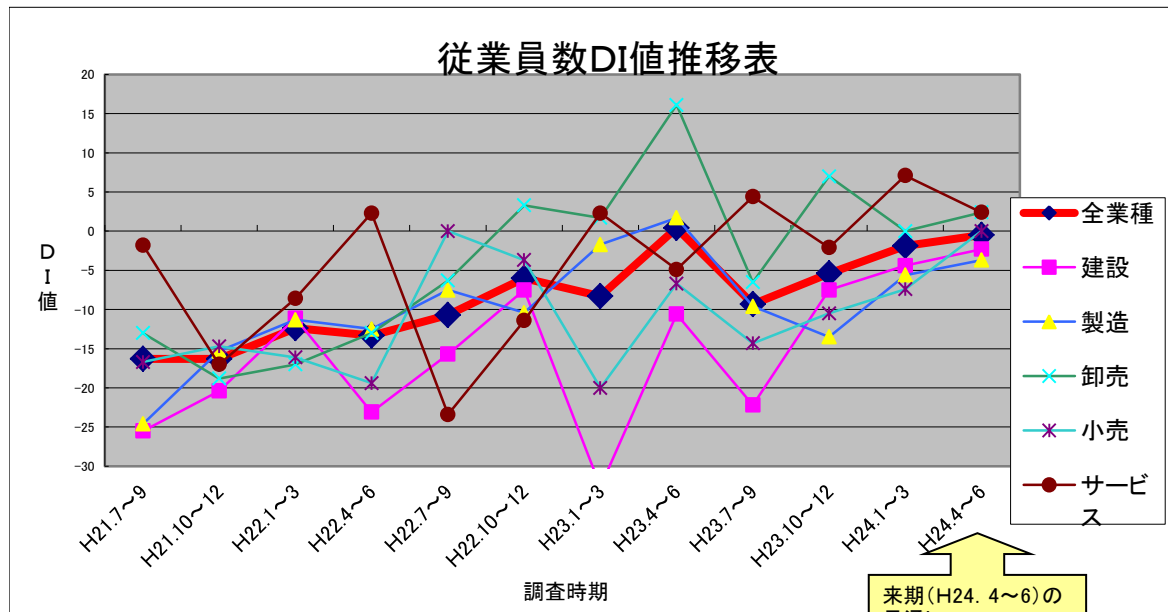
来期(H24. 4~6)の見通し

今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は8社(前期比7社減)、「悪化した」と回答した企業は63社(前期比13社減)、「横ばいである」と答えた企業は152社(前期比11社増)であった。DI値を見ると▲24. 7となり、前期比で1. 6P好転した。

業種別に見ると、建設業▲16. 7(前期比26. 2P好転)、製造業▲18. 2(前期比9. 6P好転)、卸売業▲27. 7(前期比16. 8P悪化)、小売業▲36. 7(前期比5. 9P悪化)、サービス業▲30. 2(前期比8. 6P悪化)となった。

来期(H24. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲27. 5と0. 7P悪化する見込み。

従業員数DI値推移表

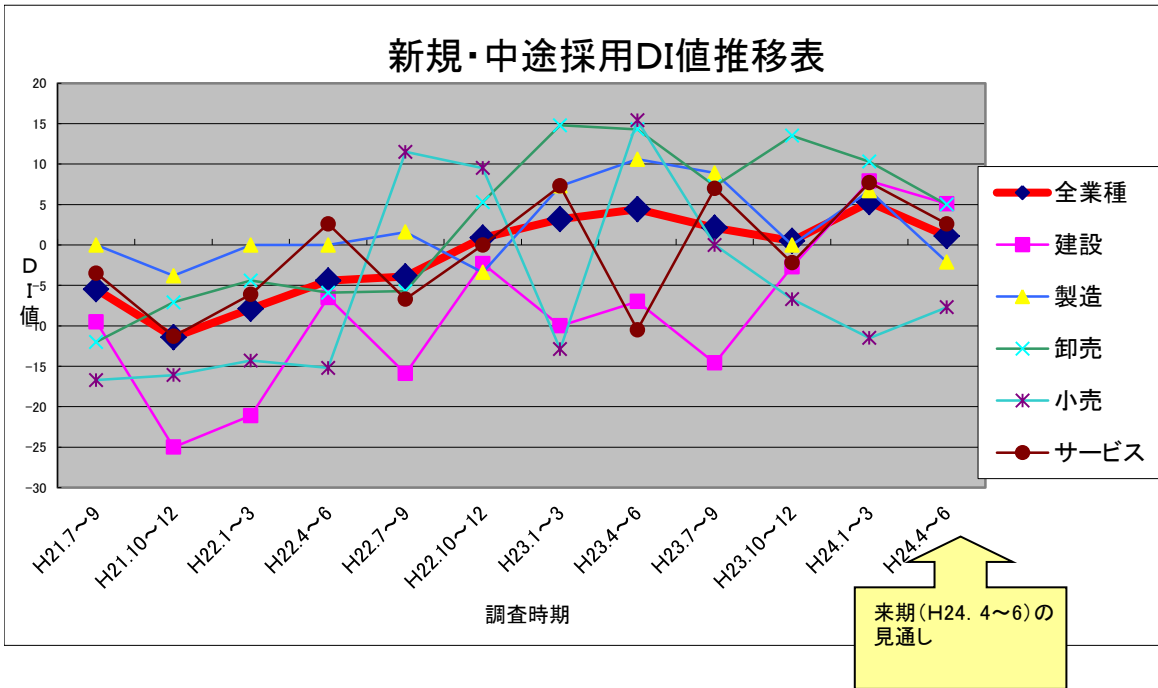


来期(H24. 4~6)の見通し

今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は30社、「減少した」と回答した企業は34社、「横ばいである」と答えた企業は146社であった。DI値は▲1. 9となった。

業種別に見ると、建設業▲4. 4、製造業▲5. 6、卸売業0. 0、小売業▲7. 4、サービス業▲7. 1となった。

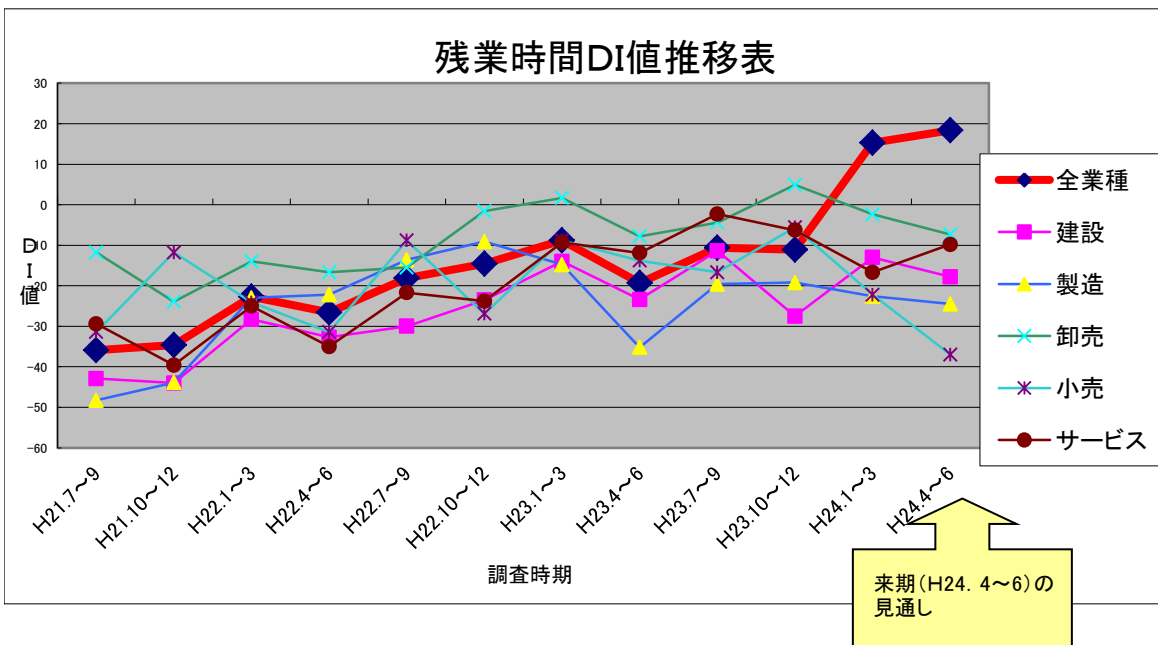
来期(H24. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲0. 5となる見込み。業種別に見ると、建設業▲2. 3、製造業▲3. 7、卸売業2. 4、小売業0. 0、サービス業▲2. 4となる見込み。



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は26社、「減少した」と回答した企業は16社、「横ばいである」と答えた企業は145社であった。DI値は、5.3となった。

業種別に見ると、建設業▲7.9、製造業6.7、卸売業10.3、小売業▲11.5、サービス業7.7となった。

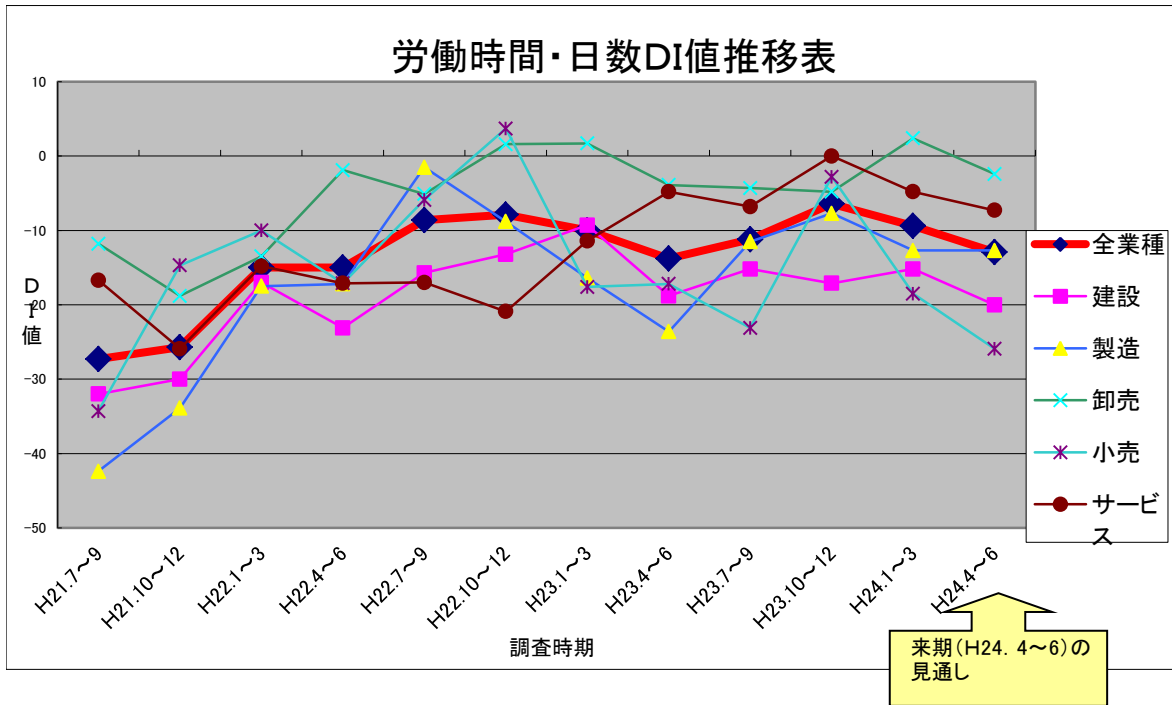
来期(H24. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は1.1となる見込み。業種別に見ると、建設業5.1、製造業▲2.1、卸売業5.0、小売業▲7.7、サービス業2.6となる見込み。



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は18社、「減少した」と回答した企業は50社、「横ばいである」と答えた企業は141社であった。DI値は▲15.3となった。

業種別に見ると、建設業▲13.0、製造業▲22.6、卸売業2.4、小売業▲22.2、サービス業▲16.7となった。

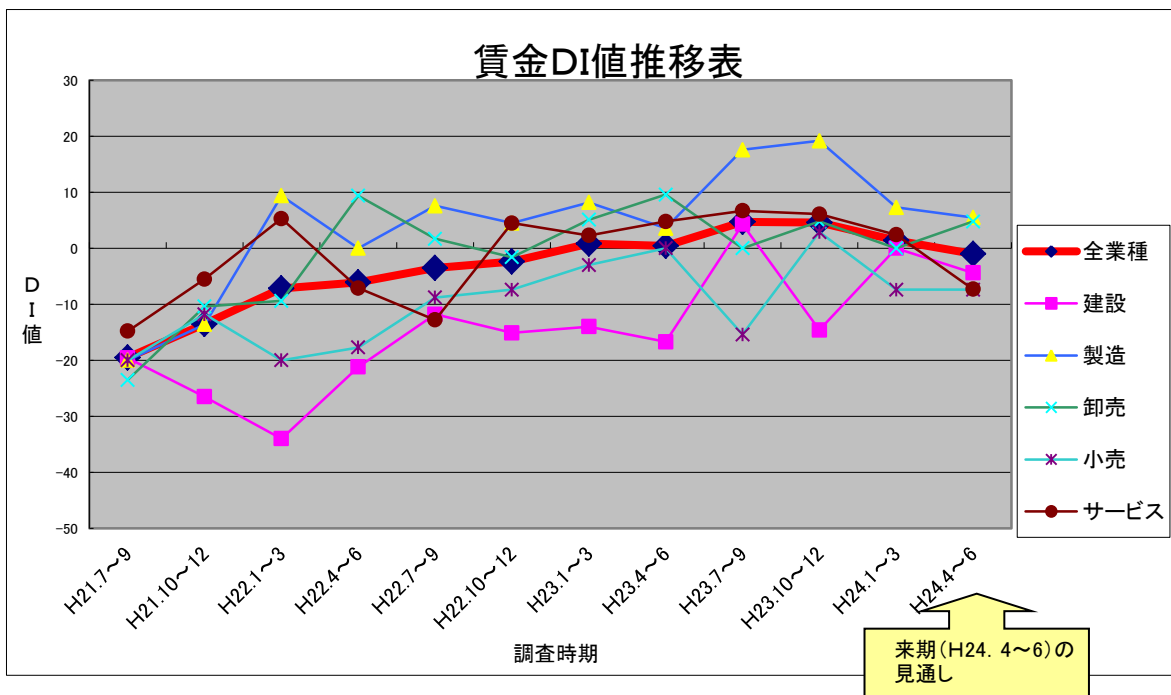
来期(H24. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲18.4となる見込み。業種別に見ると、建設業▲17.8、製造業▲24.5、卸売業7.3、小売業▲37.0、サービス業▲9.8となる見込み。



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は13社、「減少した」と回答した企業は33社、「横ばいである」と答えた企業は166社であった。DI値は▲9.4となった。

業種別に見ると、建設業▲15.2、製造業▲12.7、卸売業2.4、小売業▲18.5、サービス業▲4.8となった。

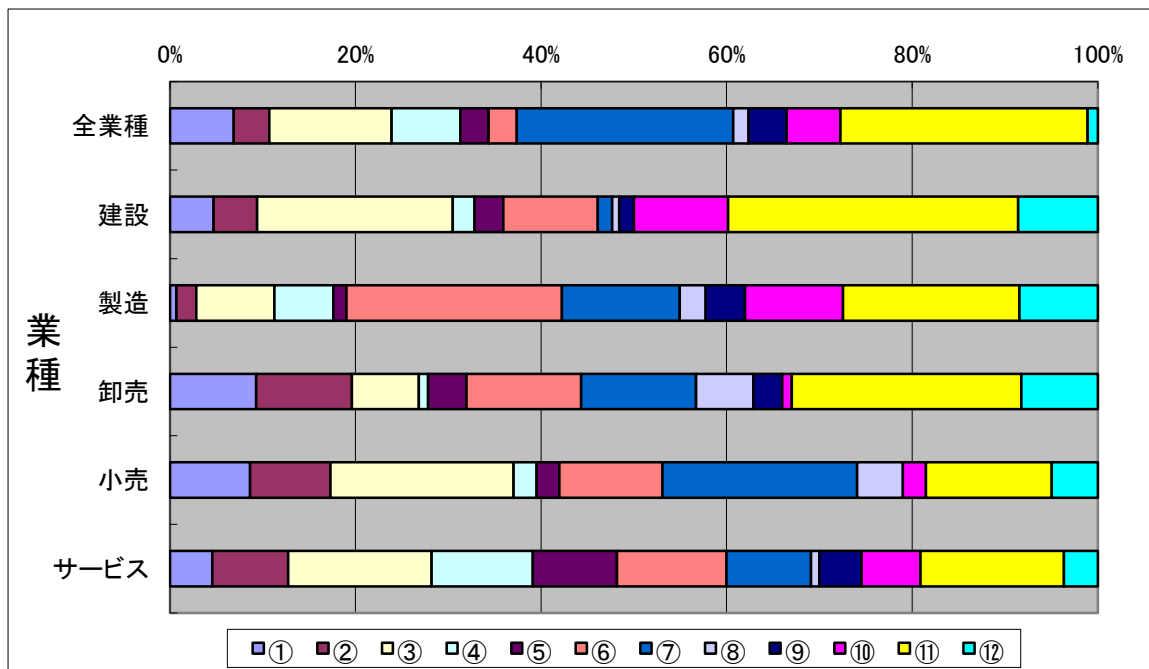
来期(H24. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲12.9となる見込み。業種別に見ると、建設業▲20.0、製造業12.7、卸売業▲2.4、小売業▲25.9、サービス業▲7.3となる見込み。



今期(H24. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は33社、「減少した」と回答した企業は30社、「横ばいである」と答えた企業は149社であった。DI値は1.4となった。

業種別のDI値では、建設業0.0、製造業7.3、卸売業0.0、小売業▲7.4、サービス業2.4となった。

来期(H24. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲1.0となる見込み。業種別に見ると、建設業▲4.4、製造業5.5、卸売業4.8、小売業▲7.4、サービス業▲7.3となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H24. 1～3)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(26. 6%)」「販売価格の低下・上昇難(23. 4%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(31. 2%)、製造業(18. 3%)、卸売業(24. 7%)、小売業(13. 6%)サービス業(15. 5%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

「東日本大震災で仕入メーカーの工場が被災し、今年夏頃まで入荷の見通しが立たない」(その他の設備工事業)
 「石油価格高騰により経費が増加した」(一般土木建築工事業)
 「今期は工事が受注でき業績が回復したが、来期は不透明」(塗装工事業)

【製造業】

「経費の増大で、仕事を受注しても利益が出ない」(その他のゴム製品製造業)
 「不景気により取引先が減少している」(その他の食品製造業)
 「納入先の生産海外シフトによる業績低迷」(表面処理鋼材製造業)

【卸売業】

「ネット販売事業者との販売競争が激化している」(建築材料卸売業)
 「売掛金増加により経営圧迫がされる」(一般機械器具卸売業)
 「社員の士気を高める教育に力を入れていきたい」(鉱物・金属材料卸売業)

【小売業】

「大型店にお客様が流れることで、小規模小売業者が圧迫される」(酒小売業)
 「節約傾向により需要が停滞していると感じる」(他に分類されない小売業)
 「大型量販店の安売りによる価格競争の激化」(時計・眼鏡・光学機械小売業)

【サービス業】

「重油価格の高騰により経費が増大し、経営が圧迫されている」(公衆浴場業)
 「販促企画を行うも、客足が好転しない」(洗濯業)
 「3月に入り客数も増え、業績が回復した」(美容業)